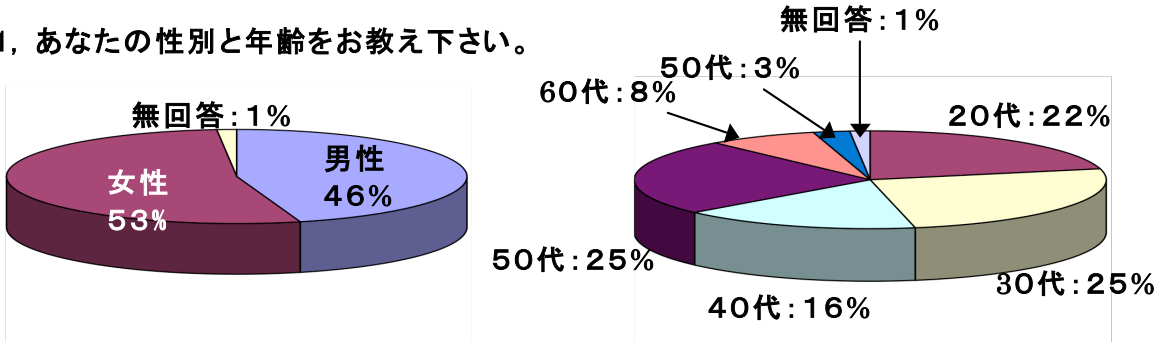


第4回東北大学男女共同参画シンポジウムでのアンケートの集計結果

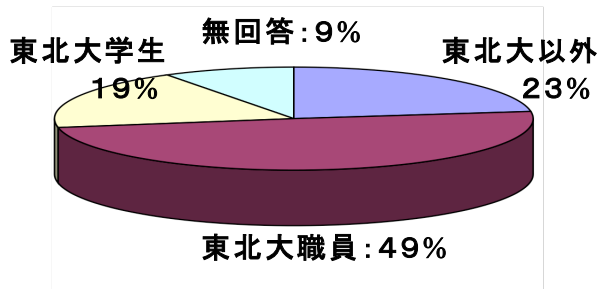
2005.12 男女共同参画委員会・広報 WG

上記シンポジウムに参加された方々に、今後のシンポジウム開催の参考するために、シンポジウムの内容等に関してアンケートで伺った。参加者約230名のうち、79名の方から回答を頂いた。

Q1. あなたの性別と年齢をお教え下さい。

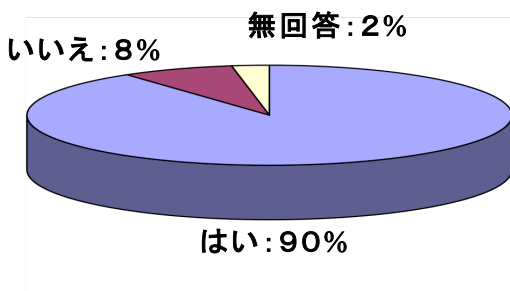


Q2. 職業と、もしよろしければ、会社名、職名等もお教え下さい。

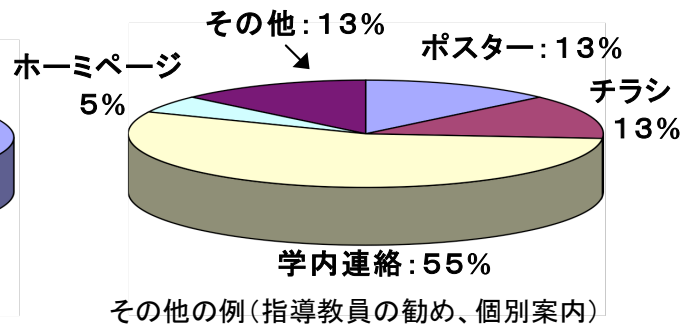


東北大学以外:
 パネルディスカッション参加校(愛知教育大学、秋田大学、東京学芸大学、東京大学、名古屋大学、一橋大学、北海道教育大学、山口大学、早稲田大学)、山形市女性団体連絡協議会、福島大学、仙台市役所、男女共同参画推進センター、物質材料研究機構、岩手県立大学

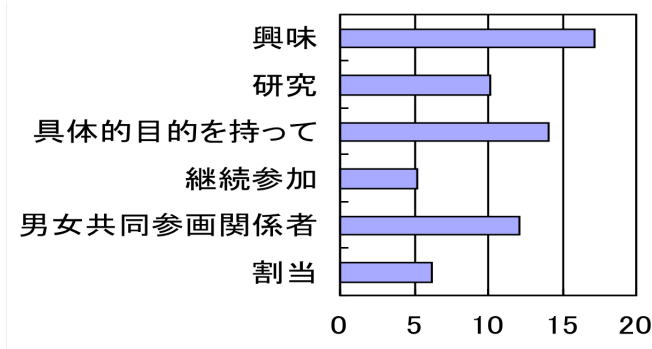
Q3. これまでに男女共同参画について何かご存知でしたか？



Q4. このシンポジウムのことをどこでお知りになりましたか。

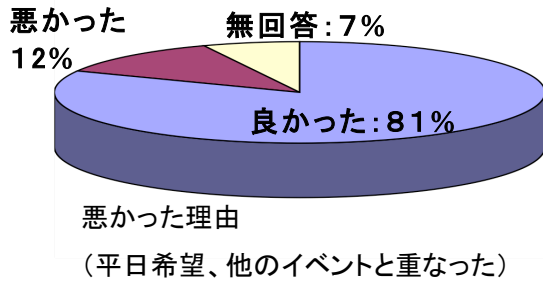


Q5. このシンポジウムに参加された動機は何ですか。

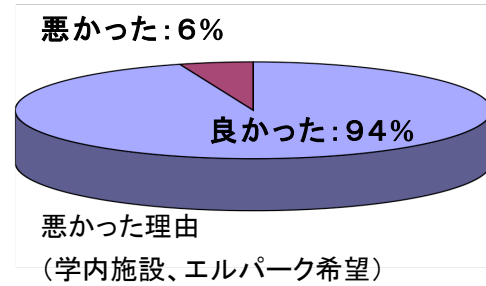


具体的目的の例:
 大学病院での女医の労働環境についての検討状況の調査;各大学の実情を知るため;保育所の設置にかかる取組状況の把握;自分が今悩んでいる問題に解決のためのヒントを求めて

Q6. 日時について

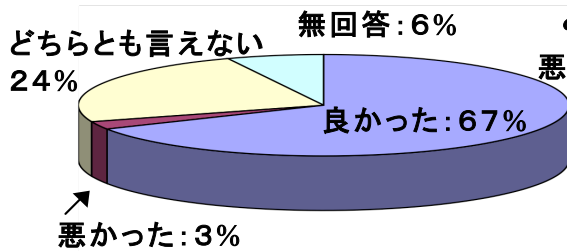


Q7. 場所について

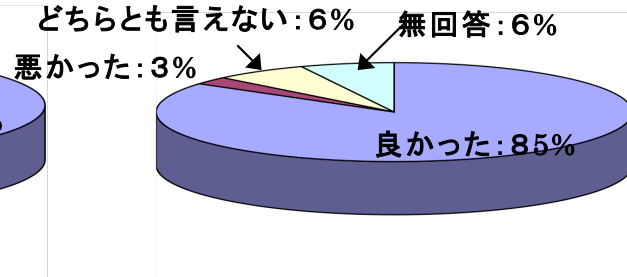


Q8. シンポジウムの内容について

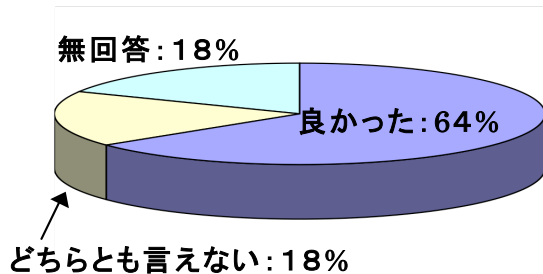
受賞・成果報告講演



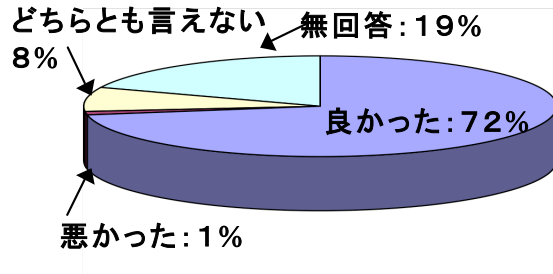
基調講演



パネルディスカッション



全体として



Q9. 内容についての感想(抜粋)

- * 大沢先生の講演で人材の裾野を広げるべきだという点に同感。このようなしっかりした視点を持った先生の講演を聴く機会がもっとあった方が良いと思う。学生さん向けにも良い。
- * 大沢先生の統計に基づいた話が興味深かった。机のある会場でよかった。
- * いずれこの大学もポジティブアクション、数値目標の低さに関しては問題の多さを感じるが、男女共同参画も一日にしてならず、コツコツと積み上げていくことが肝要か。
- * 多くの大学から参加者がおり、他大学の動向が分かり有意義であった。本学男女共同参画委員会の多方面における努力の成果であると思う。
- * 参加大学で実施されている様々な取組を知ることができ、興味深かった。同時に、実際的成果を結ぶことは難しいことも知った。
- * 回を追うごとに本シンポジウムがよりよくなって、充実しているのを嬉しく思う。シンポのみならず、その活動が学内に少しずつ浸透してきているのではないかと思える受賞講演だった。過去のプロジェクト部門で受賞した人たちのその後の研究成果が聞けたことはとても良かった。
- * 受賞講演(石垣さん)では、お父さんのNWが男女共同参画を支えていることに、成果報告(小川ほか)では、米国の高大連携で別学の実態が、宮城県立高校の共学化と反することに興味を持った。
- * 講義の中でジェンダー論を採っており、また所属する法学部でのCOEプログラムで男女共同参画を扱っていることは知っていましたが、内容を殆ど知らなかった。今回その内容が少し分かった。
- * 授賞式だけでなく、各自発表がなされたのですばらしい。農村女性企業活動、母親の会とか、母親学級等と称した活動はみうけられるが、“おやじの会”はすばらしい。山形にはない。
- * 意欲的な構成企画がなされており、好感が持てた。男女共同参画推進に必要な法整備・研究が望まれる。
- * 実践が大変。全国へ広がるような広報活動は？どこまで進んだのかヒアリングが大切。

- * 大学内の男女共同参画をどう進めていくかというテーマだったが、大学外の人間にも為になる内容でした。
- * 大学の現状を聞くのは初めてなので、参考になった。会場とのやりとりがもう少しできたらなお嬉しかったが、時間的な配分等、精一杯だったかもしれない。
- * 大学がモデルとなって、産学官+民のネットワークができるのが良い。(社会に開かれたステップがほしい)
- * 比較的まとまった議論が聞けたと思う。パネルディスカッションは、内容が多すぎてまとまりきらず、バラバラというものが多いが、今回のものはまとまっていたよかった。
- * 各大学の取り組みが同じような内容で、少し退屈した。東北大学の鈴木先生の発言がおもしろかった。課題解決のために、どのようにすればよいかという意見は、実行不可能な部分があるとはいえ、何かヒントを含んでいるような気がする。
- * 盛りだくさんの内容で、各大学の報告などとても参考になった。ただ、話が長すぎてパネルディスカッションで十分に議論する時間がなかったのが残念です。大学の報告とパネルディスカッションを分け、一日ぐらいかけてやる内容であったように思う。いろいろ質問したいこともあったが、懇親会に参加できず話を聞くだけになってしまったのが残念。
- * 受賞講演が1件10分とは短いのでは？一番くるべき教授職ぐらいの男性の参加が少ない。
- * 盛り沢山で聞き応えがあった。ただ、受賞、成果報告は時間が10分と短すぎる。もっと聞きたかった。
- * パネルディスカッション、討議の時間がもう少し欲しかった。各大学の施策の説明に時間がかかりディスカッションが少なくなったのが残念。
- * 前回までと比べ、内容が充実してきたように思う。時間の都合からある程度説明が省略されることは仕方がないが、各人の資料等、後日 HP 等で自由に見られるようになれば良いのでは？
- * 本音と実態の意見交換を聞くことができ、大変意義深かった。
- * 各校の組織や情報を表にして比較できるようにしてあるとわかりやすいと思った。
- * ポスターの発表がとてもおもしろかった。
- * 全体としてセレモニー化している印象を受ける。もっと男女共同参画に関わる“問題”に迫るようにすべき。
- * 興味深い話であったが、何かしら同好会的な感がある。
- * 週末しかないパートナーとの貴重な時間だったのですが、

Q10. 男女共同参画推進に関係したシンポジウムで、希望の企画(抜粋)

- * 勤務時間に関するパネル。フレックスタイム。平日の数時間の OFF 勤務時間を作るなど(例えば、4時以降は会議をしないなど具体的なプランについて)。
- * 子育て(家庭)と仕事、研究の両立について、具体的な話題を取り込んだ話を聞いてみたい。
- * 年金に関して。フルタイムとパートタイムの賃金格差に関して。男女共同参画社会における子供の教育。
- * これからの日本の発展と女性の地位向上。
- * 法制度を現実的に実行していく上でまた実行してみたい課題等について議論できるようなシンポジウム。
- * 身近なテーマ(例えば「パート職員の地位向上」)を取り上げて議論するのも盛り上げの一策では。
- * 課題はいくつもあるので、その一つを選んで、各大学での取り組み、成果、等々についてつっこんで話し合うシンポをしてください。ポジティブアクションの問題など如何でしょうか。
- * 男子の育休推進をどうするか——これが重要だ。
- * 実践されていること、実行されていることが紹介されるような企画。
- * 「どこまで進んだ大学の男女共同参画」Part2
- * 学生および大学外の人たちからとらえた大学の男女共同参画の在り方、課題について意見交換するような企画？
- * QP に関連して、ISTU と連携してシンポジウムのコンテンツ化しては？(その場限りで消えてしまうのはもったいない。)今回は学外者が多く、“東北大学の内輪のイベント”から抜け出しつつあると思う。市民団体関係者、行政関係者などバラエティに富んだゲストや話題を盛り込んでほしい。
- * 大学だけではなく、民間会社や自治体などの取り組みの紹介は？
- * 今回は、委員会や企画室の方々のお話が多かったように感じました。参加者も大学教員、職員の方が多かったと思います。是非、学生レベルへの企画を行って下さい。男女共同参画の目的は学生への意識向上もあると思う。
- * 専門家 vs 東北大生の討論
- * 鈴木先生がおっしゃったように、とにかく問題が多すぎます。分科会などでは大きくなりすぎか？
- * セクハラ防止策について教育して欲しい。また、学生がセクハラにあったとき、どうすればよいかも。(学生と教員へ)
- * 何にせよ「部局・専攻参加割当」はやめましょう。目ざしているものに反する。

Q11. 東北大学における男女共同参画推進、又は学問・教育におけるジェンダー問題についての意見(抜粋)

- * 門戸解放という理念に誇りをもって男女共同参画を進めている点が印象的でした。沢柳賞、シンポジウム開催など幅広い活動により、女子学生がそれぞれの分野で自身を持って活動していけるような土壌が出来つつあるように感じた。
- * 男性も女性も働きやすく、のびのびと能力を発揮できる環境作りを組織として積極的に進めて頂きたい。

- * カメのごとき歩みでも男女共同参画に真剣に取り組んでいる姿は見ているは見ている。またそれが若い学生に良い影響を与え、意識や行動が変わっていくことを期待する。今後も具体的な活動、目に見える事業を展開してもらいたい。
- * 頑張っている研究に対して、過去のみでなく、一年後を見据えてという形での賞を作られたこと、嬉しく思う。推進するには、全体の共通認識が大事であり、それが至難のことと思うが、頑張って下さい。
- * おそらく男女共同参画推進を“大学内“に限定することは、社会に対して貢献が少ないと思われる。大学は人類、社会の福祉に貢献することが目標であることを思い出すべき。
- * 沢柳賞創設の歴史的背景を踏まえ、今後も推進していくべきとは思ふ。一方で、女性教員比率20%目標の数値にこだわるのはいかがか？逆差別にも見られるわけで、要は研究業績の観点から重視すべきと考えるが難しい問題だろう。
- * 沢柳賞を創設して、研究や実践活動をされていることを初めて知り、とてもよい制度だと感じた。男女共同参画に対する意識を高めるとてもよい動機付けになると思う。
- * シンポジウムの参加依頼があった際に「そこまでしないと人が集まらないイベントは不要」、「学術研究発表会のように興味が沸かない」などの意見が多かった。しかし、参加して、予想外にバラエティ豊かな構成(学術的・政策的な内容から身近な事例まで)で面白かった。内容の充実とともに、上手なPRを心がけてほしい。
- * 男女共同参画という数値や政策的なものだけかという印象を受けた。「多様性」という言葉は性差(ジェンダー)を肯定して、問題に気づきにくくさせるような気がした。
- * 「ジェンダーの視点、ジェンダーバランス、共同参画等々、難解な語が並び、さらに推進委員会、推進体制、推進室等々で対応する」のような理解がたい表現が飛びかっていたが、中身はセクハラ、育児休業、採用人事、女子トイレ、と極めて明快。鬼面人を驚かすではなく、もっとわかりやすい具体的な表現をすれば、一般市民の共感を得られる。
- * 意識を「変える」だけでなく、意識が「変わる」環境づくりのの一助となることを期待する。
- * その場だけとか、研究上だけでなく、本当の男女参画の難しさを感じる。
- * 今回、他大学の男女共同参画への取組について紹介をいただきましたが、海外の状況についても、外国の専門家を招いて教えて頂けるとありがたい。
- * 鈴木厚人副学長の提起された講座制改革等とあわせた改革など具体的で興味深かった。
- * 他機関や他大学との連携をもっともっと進めて頂きたい。特に、地元の機関とぜひ。高校、私大や地元センターとも連携がいただけることをお願いしたい。
- * 東北地域の中では先進的な取組みだと思う。特に、保育所の立ち上げは育児によるキャリア中断を防げるのでよい。
- * 女性の先生が増えればよい(教授は無理でもせめて助手、講師)。女性の学生が悩み事を相談しやすい環境になる。
- * 東北大学の学生(学部生)の中の女性比率がまだまだ低い。私の所属する部局はおそらく女性教員の占める率が一番高い(10%強)と思うが、それでもまだまだ日常の教育・部局運営上は女性の活動がやりにくいのは否めない。どうしても部局の日常運営上の情報がまだ入りにくいなど。20%になればもう少し「楽」。
- * 部局サイドではまだまだ盛り上げに欠けているように思うし、部局間でも温度差がだいぶあるように思う。今後は大学間のネットワークを構築することにより、より基盤作りをすることが必要。
- * シンポジウムが全学規模で行われているにしては参加者が少ないと思うが、関心のなさを反映しているのだろう。東京学芸大のように全学や大学院でも、必須科目にジェンダー等の教育を加えるべきだと感じる。例えば、無理矢理女性教員の数を増やしても、その意義を理解できる人間は少ないと思うので、学部時代から、基盤を作るべきだ。
- * 今回やこれまでのシンポジウムについて、学・院生はほとんど知らないと思う。ジェンダーを扱う講義を1セメスターに2つとったが、学生の取組はそこまでしっかりしたものではない。学生向けの情報発信にもう少し力を入れるべき。
- * 男女共同参画推進に関する日常のアピールがまだまだ足りないように思う。教員を中心とした職員の意識の向上をもっとひんぱんに図っていく必要がある。
- * 東北大でこうした取組が行われていること自体知らなかった。自分自身の情報収集不足もあるが、それ以上に周知が十分なされていないのではないかと。職員や研究者だけのものとするのではなく、もっと学生を取り組んで考えるべきだ。
- * 一般職員(特に女性事務職員)の男女共同参画・ジェンダー意識は低いと思う。学内研修の機会を作っていただきたい。女性職員の中には優秀で頑張っている人も多いため、モチベーションも上がる。
- * セクハラに関して、強く問題意識を持ち、対策をとることは本当に重要なことだと思う。しかし、男性(教員)の意識の問題を解決しないことには、いつまで経っても自らの無実を主張して自殺を図る人間が出てくるのではなからうか。
- * セクハラについて学生が安心して相談できる第三者が必要だと思う。東北大学ではどのような機関が対処しているのか広く学生や教職員に知らせて欲しい。
- * 旧姓使用をしているが、国際会議に参加する際に、会議登録名とパスポート名が違い、ホテルのチェックインの際に困ることがある。職員カードのような、旧姓使用証明カード(英語版)(携帯できるもの)があれば、大変助かる。